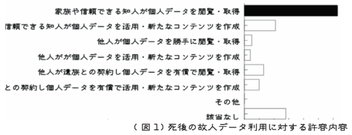
故人データ閲覧施設

デジタル社会における新たな「別れ」の在り方

死後の故人データの取り扱い

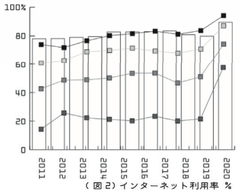
デジタルデータの需要が上昇しているにも関わらず、死後の個人データに関する制度は未だ整っていない。死後の個人データ利用に関するアンケートでは、デジタルネイティブ世代の過半数が、死後の故人データ利用を許可すると回答し、その利用目的として最も多く許可されたものは「家族や信頼のできる知人による個人データの取得・閲覧」だった。



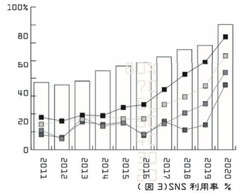
（図 1）死後の故人データ利用に対する許容内容

SNS で再会する親子

スマホ講座を受けるＡさん（当時 70 歳）は、スマホの使い方を覚えネットを閲覧していた時に亡くなった娘のアカウントを偶然見つけたという。そこには生前の生き生きとした我が子の人生軌跡が残されていた。Ａさんは、「自分の知らない友人たちと楽しく過ごす日々や旅行記を見て、娘は充実した人生を送れていたのだと思い少しホッとした、またいつでも振り返ることができてとても嬉しい。」そう語った。



（図 2）インターネット利用率 %

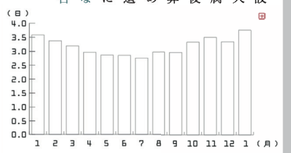


（図 3）SNS 利用率 %

全体　60-64 歳　65-69 歳　70-79 歳　80 歳以上

現在の「別れ」の問題点

現在、別れの施設である葬儀場や火葬場は、肉体の腐敗の関係から死後平均三日以内に葬儀を執り行うために使用される。遺族はその段取りに明け暮れ、大切なひとの死に向き合う時間が取れない。

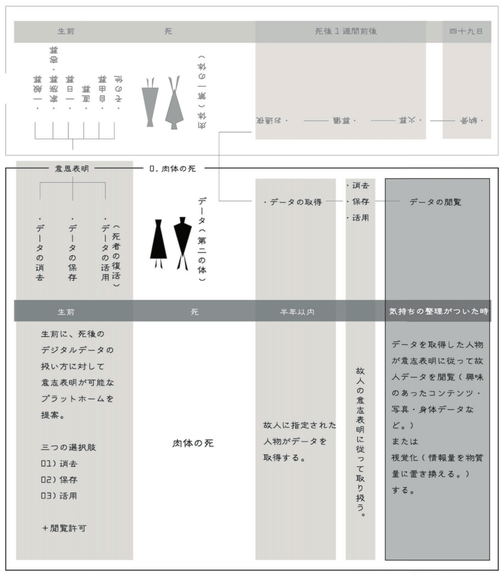


（図 4）死後から葬儀までの月別平均日数

もう一度「死」に向き合う機会が必要ではないだろうか。

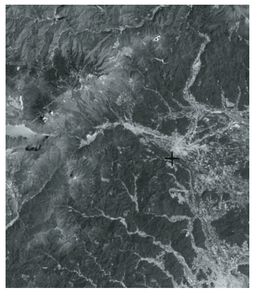
- 提案 -　故人データ閲覧施設

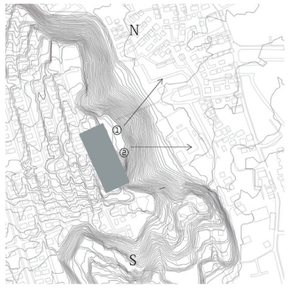
(図 5) 故人データ取扱いの流れから、故人データ閲覧施設を提案する。
遺族たちが、大切なひとの「死」に対して心の整理がついたそれぞれのタイミングでこの建築を訪れる。故人の個人データを閲覧し、新たな一面を知り、興味を持ち、調べ、新たなことに出会ってゆく「気づき」と「出会い」の場がデジタル社会における故人と遺族のための新たなプラットホームなのではないだろうか。このような建築が各地に建った時、地域の人々が大切なひとの死をきっかけに訪れる、新たな繋がりを生む場として機能する迷惑施設ではない公共的な建築として大きな意味を持つ施設になると考える。



（図 5）故人データ取扱いの流れ

- 敷地 -　栃木県鹿沼市坂田山

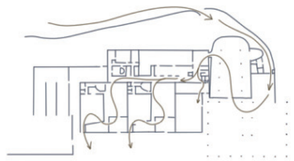


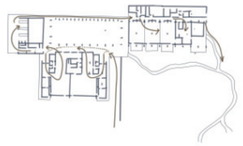


- 葬儀場と火葬場の動線 -

（ 参考事例 ）

風の葬祭場

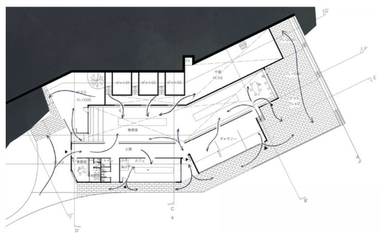

森の火葬場


Statie Stuifduin Crematorium

これまでの「別れ」の施設である葬儀場や火葬場は、他の利用者と動線上の衝突を避ける一筆書きのプランだった。

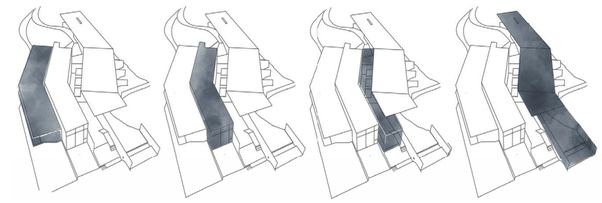
- 新たな「別れ」の空間の動線 -

・自分の意思で自由に利用できる空間

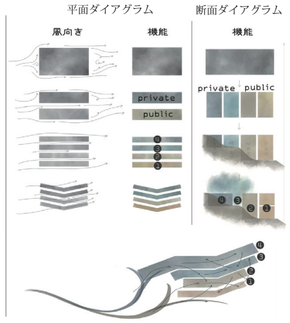


複数の機能を併設させ、公共空間としての単純さがありながら、
長い箱を鈍角に曲げることで奥行きを作り建築に回遊性を持たせた。

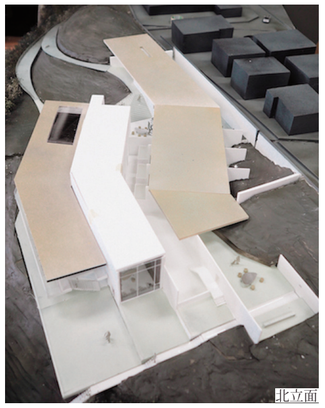
public ―――――――――――――――――――――――――――――― private



❶講堂・ギャラリー、カフェ　❷検索室　❸中庭広場　❹データ閲覧・待合室



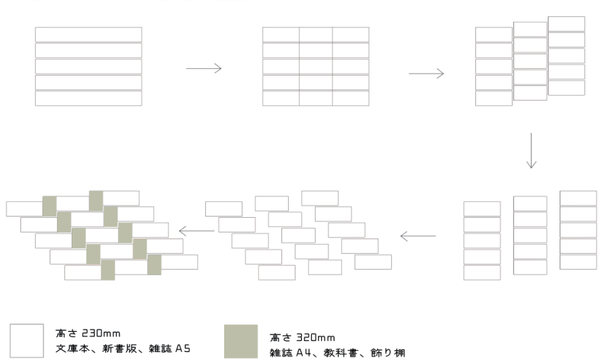
- パース -

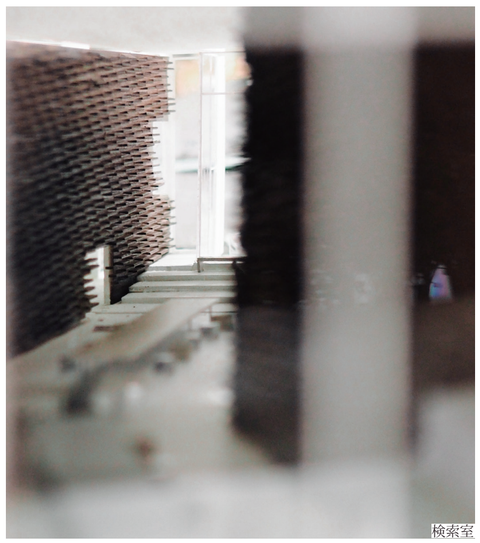

北立面

東立面

壁一面に動きを与えることで、空間に流れを作る。

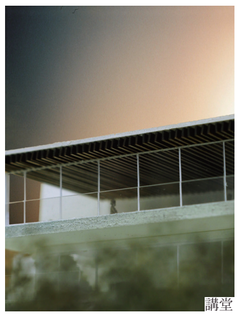
本棚
壁一面の本棚に動きを与えることで空間に流れを作る。




検索室

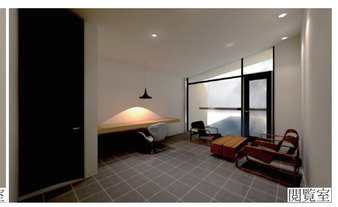
テラス

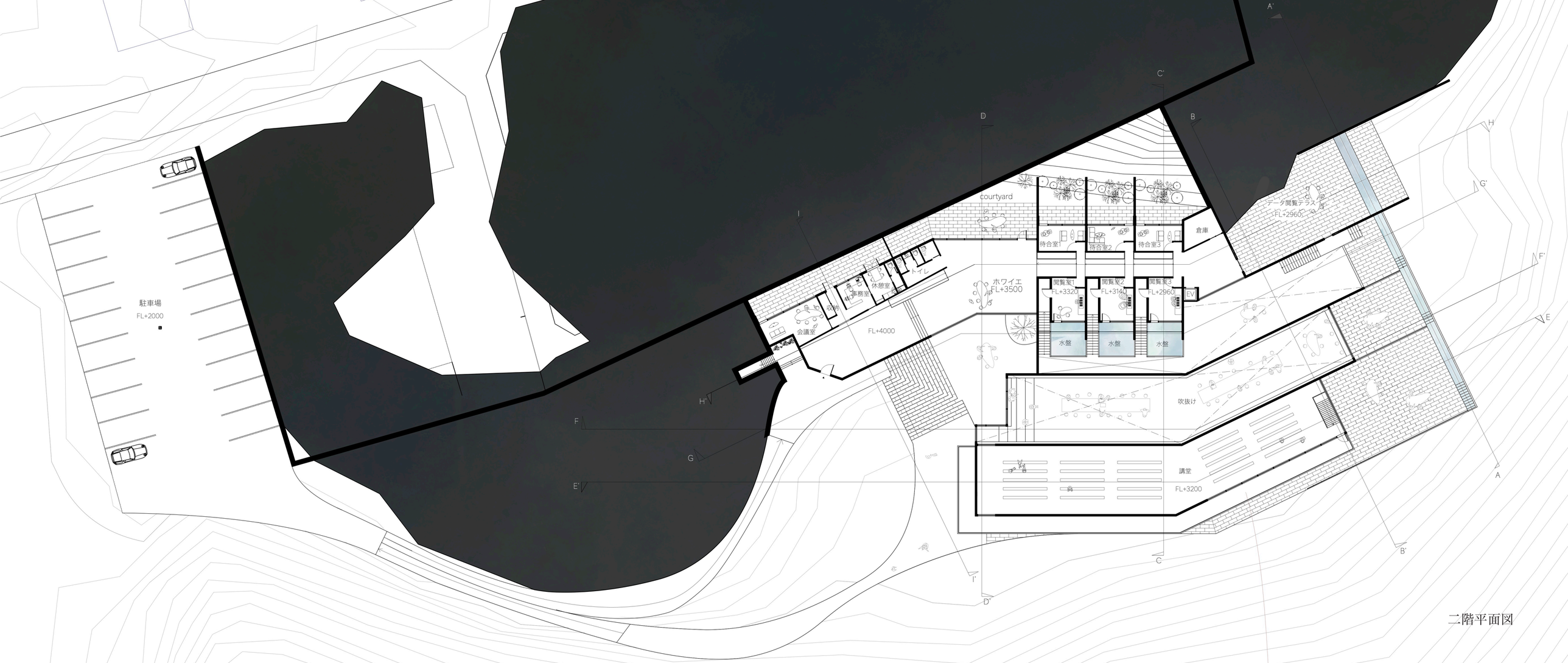
閲覧室


講堂

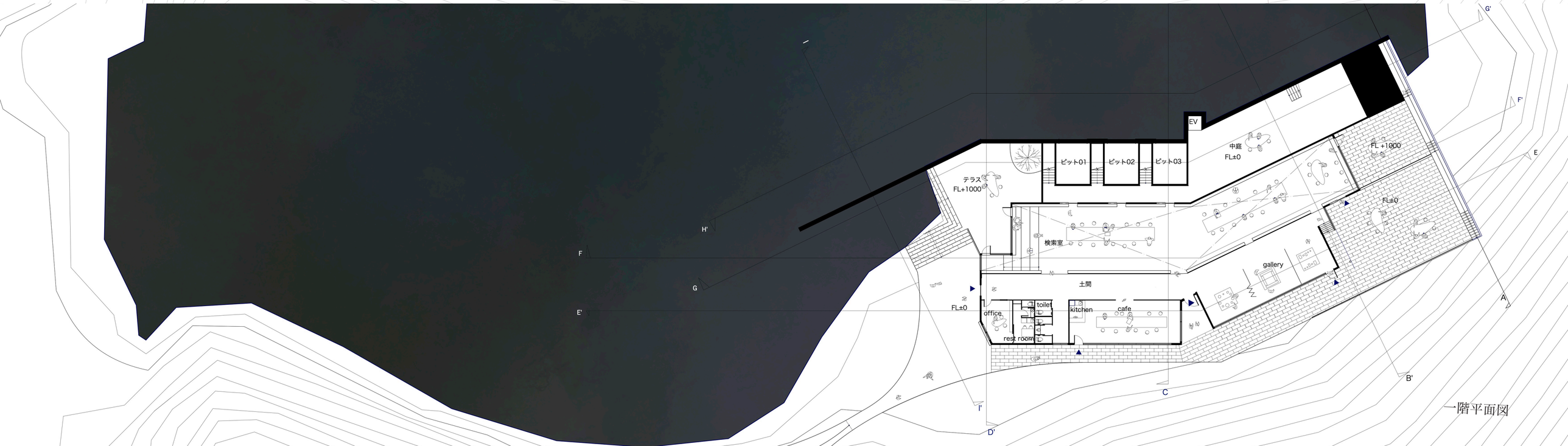
講堂

待合室

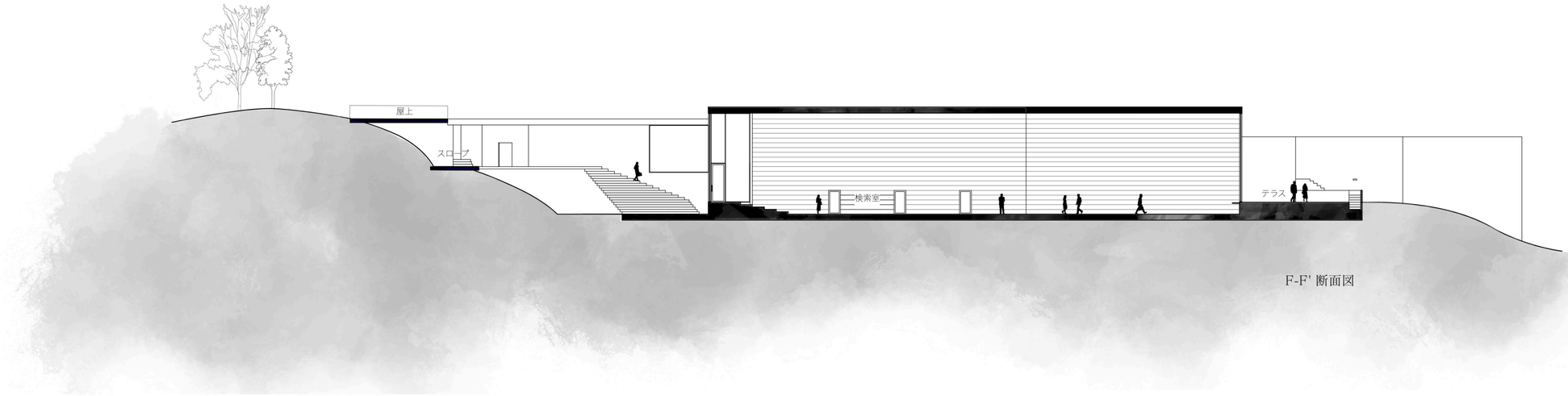

閲覧室


駐車場
FL+2000
会議室
吹抜
事務室
休憩室
トイレ
FL+4000
courtyard
ホワイエ
FL+3500
待合室1
待合室2
待合室3
倉庫
閲覧室1
FL+3320
閲覧室2
FL+3140
閲覧室3
FL+2960
EV
水盤
水盤
水盤
データ閲覧テラス
FL+2960
吹抜け
講堂
FL+3200
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I'

二階平面図

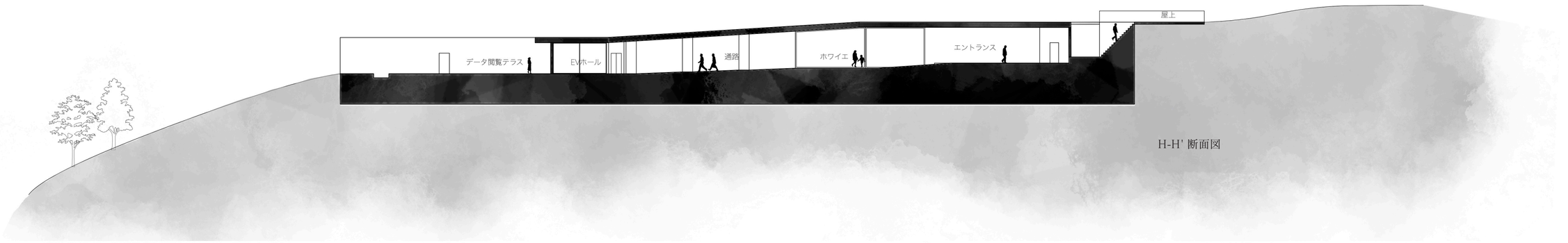

EV
ピット01
ピット02
ピット03
中庭
FL±0
FL +1000
テラス
FL+1000
検索室
土間
FL±0
office
toilet
rest room
kitchen
cafe
gallery
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
G
G'
H
H'
I
I'

一階平面図

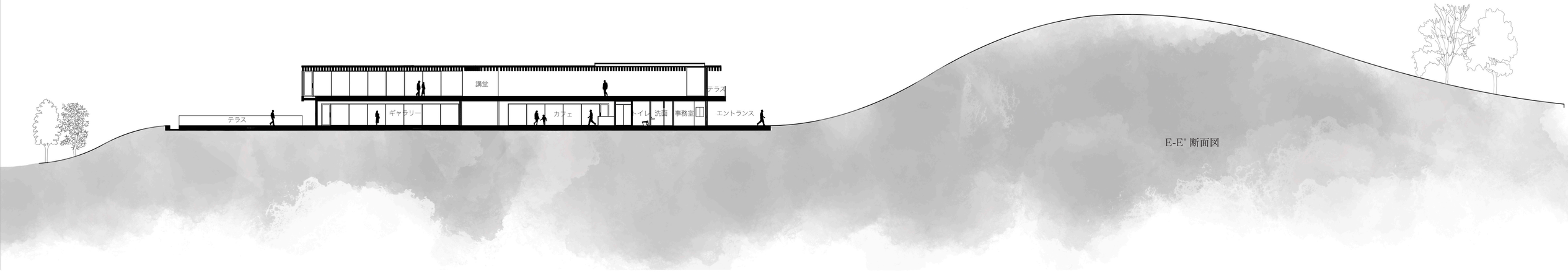


F-F' 断面図

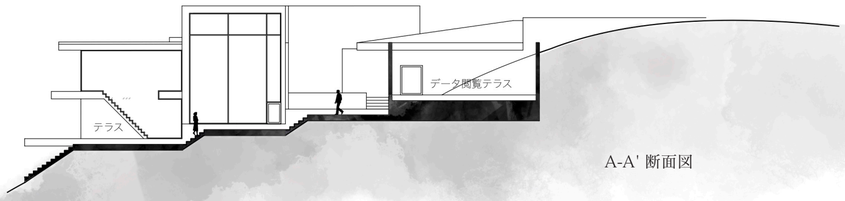
G-G' 断面図



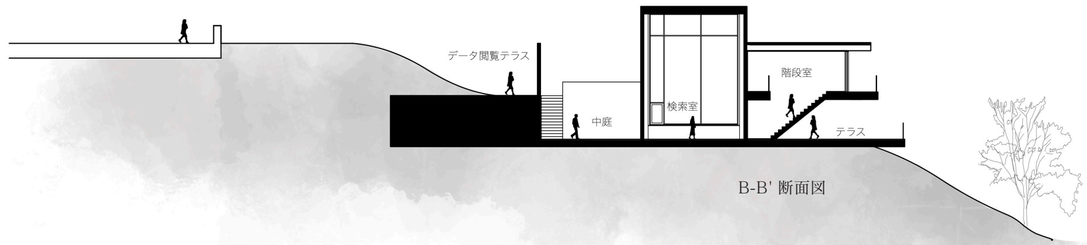
H-H' 断面図



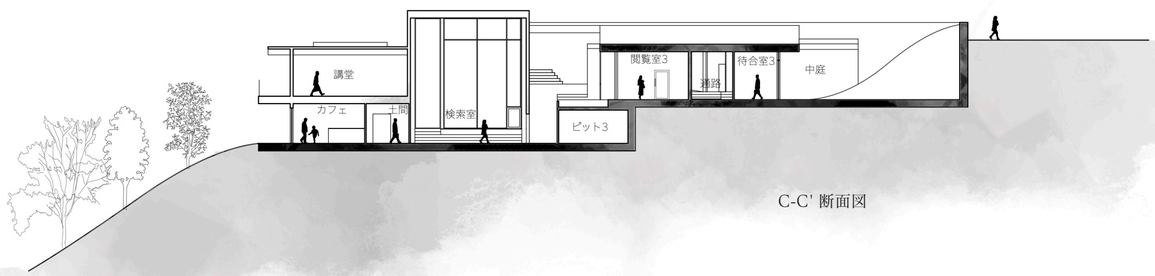
E-E' 断面図



A-A' 断面図



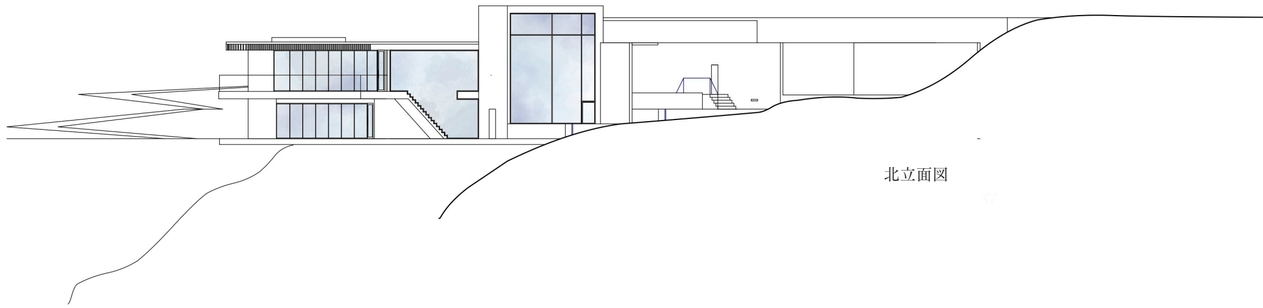
B-B' 断面図



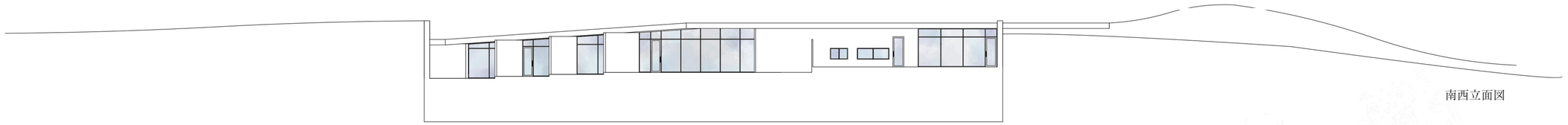
C-C' 断面図

D-D' 断面図

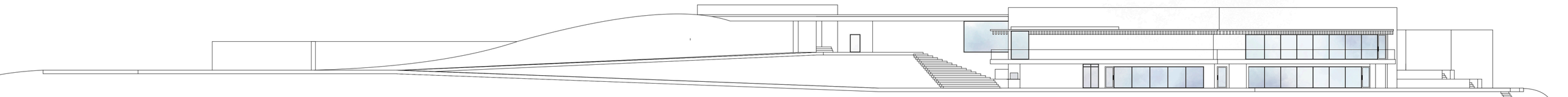
I-I' 断面図　兼　南東立面図



北立面図



南西立面図



東立面図